



営農NEWS



イチゴに発生するハダニ類、うどんこ病、灰色かび病などに十分注意しましょう

イチゴ栽培では、暖冬と一時的な寒さの影響を受けて、また、収穫作業も盛期に入り、多忙な時期となっています。なお、イチゴを加害するハダニ類の発生は、ここ数年と同様に、本圃の初期よりやや多い傾向が続いていました。病害虫発生予報 2 月号（病害虫防除所）によりますと、1 月下旬現在、ハダニ類の寄生葉率および被害葉率とも平年並の状況ですが、気象予報で気温が今後とも平年より高く推移すると予想されていることより、2 月のハダニ類の発生量は平年並～やや多くなると予想しています。例年、厳冬期に入ると発生がやや抑制する傾向がありますが、気温の上昇とともに再び発生量が増加する恐れがありますので、今後とも十分な注意が必要です。

また、これからは、うどんこ病や灰色かび病の発生しやすくなる時期となります。これら病害は、直接、果実発病による減収を招きますので、常に発生に注意し、早期発見、早期防除の徹底に心がけてください。

＜ハダニ類、うどんこ病 灰色かび病 防除のポイント＞

- 1) 発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾などを丁寧に観察してください。
- 2) 発生を確認したら、少ないうちに薬剤防除を実施してください。この場合、葉裏や下葉にもよくかかるよう、株全体に丁寧に散布することが特に重要です。
- 3) 既に多発生した場合には、罹病葉や葉柄、果梗、果実等の病部を摘み取ってから、薬剤散布を行ってください。
- 4) 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、気門封鎖剤を除く同一系統剤の連続散布は避けてください。
- 5) ミツバチや天敵を放飼している場合には、薬剤の影響等について、メーカーや関係機関等から必ず指導を受けてください。

表 1 イチゴ ハダニ類の主な防除薬剤（平成 28 年 2 月 4 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※
コロマイト水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	1 日
カネマイトフロアブル	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 1 回	□
スターマイトフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	□
マイトコーネフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	□
粘着くん液剤（デンプン液剤）	100 倍	収穫前日まで / —	—

表 2 イチゴうどんこ病の主な防除薬剤（平成 28 年 2 月 4 日現在）

薬 剤 名	系 統	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※
ガッテン乳剤	—	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○
トリフミン水和剤	E B I	3,000～5,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	□
パンチョ T F 顆粒水和剤	アミドキシム+E B I	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1 日
アフェットフロアブル	アニライド	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	□
ベルクートフロアブル	—	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○
ジーファイン水和剤	炭酸水素塩+無機銅	750～1,000 倍	収穫前日まで / —	○

※その他、被覆後には硫黄粒剤のくん煙処理が可能です。その際は専用の電機加熱式くん煙器を利用してください。

表 3 イチゴ灰色かび病の主な防除薬剤（平成 28 年 2 月 4 日現在）

薬 剤 名	系 統	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※
ファンタジスタ顆粒水和剤	—	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	□
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1 日
セイビアーフロアブル 20	フェニルピロール	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	—
ピクシオ D F	ヒドロキシアニリド	2,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内	—

注）表 1、2、3 のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針（平成 27 年版）より抜粋しました。○は薬液が乾けば当日に導入可、□は影響がほとんどなく翌日に導入可、1 日は散布後 24 時間は影響し、散布 2 日後に導入可ですが、天候、施設内の環境条件（温度、換気等）により日数が前後することがあり、注意が必要です。なお、—は指針に記載なしです。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040